

# たより

～教育支援センターNESTの活動を振り返って～

## 今、巣立つ子ども達

教育支援センターNESTには、この一年間で25名の子ども達が通級してくれました。今、巣立ちの時を迎え、子ども達との一年間を振り返ってみる時、いろいろな場面が鮮やかによみがえってきます。

そこで、これまでの子ども達との日々を振り返りながら、NESTの活動を紹介します。学校には行きたいけど・・・と思っている子ども達に「伊勢市にはこんな所もあるよ。」と声をかけていただけたらと思います。

### 教育支援センターの体験活動(主なものです)

#### <潮干狩り> ～5月 大湊海岸にて～

5月になると、NESTの子ども達の間にも集団としての関わりが生まれてきます。潮干狩りは、みんなで遠出をする自然体験活動。お弁当を持って、登下校に利用している小型のバスで出かけます。

海岸に着くと、子ども達の表情は様々です。「わあい！」と開放的な声を出す子もいれば、不安そうに座り込む子もいます。それでも、いざ出発となれば、どの子も貝掘りの準備をして、遠浅の海岸を歩きはじめるのです。



自然体験は、子ども達の力を伸ばす活動です。広がる海と爽やかな風が子ども達の心をほぐします。また、いつもと違った環境は、子ども達に多くのチャレンジの機会を与えてくれ、時にそこには「新しい自分」との出会いがあります。NESTでは、このような自然体験活動の場を大切にしています。

## <パン作り> ~7月 奥伊勢フォレストピアにて~

パン作りは、強力粉と水を混ぜるところからスタート。手にくっつくので、うまく混ぜる事ができません。わいわい言いながら悪戦苦闘しているうちに、生地がまとまってきました。「失敗はつきもの、やってみることが大切」を合言葉に、子ども達は活動を続けます。生地にバターを混ぜてこねる段階になると、「ぬるぬるする〜！」と声をあげて、手の感触を楽しんでいます。生地を醗酵させた後は、いよいよ形作り。どんな形にするのかは、当然自分で決めます。NESTの活動では、「自分で決める」ことを大切にしています。

パンが焼きあがる間に、川の中に入って遊びました。NESTでは、このような自然体験活動も大切にしています。



## <わくわく宿泊体験> ~9月 ネットワークリゾートなんせいでて~

夏の終わり、南伊勢町にあるリゾート施設で宿泊体験をしました。豊かな自然の中で、ゆったりとした時間をみんなで過ごします。

到着して、まず自分で荷物を整理。その後、みんなで集まってお弁当を食べます。食後は、チャレンジタイム。まず、カヌーに挑戦です。初めは怖がっていた子どもも、やってみるうちに慣れてくるものです。右に左にコースを変えながら、広い海を自分の力でこぎ進むという体験は、子ども達に「自信」という名の力をくれたと思います。



続いて、釣りにチャレンジ。いつの間にかキスがひっかかかっていてびっくり。釣れる度に自然と歓声があがりました。「はじめてできたよ。」という子どもの言葉に確かな成長を感じました。

夕暮れが近づくころ、みんなでクルージング。クルーザーに乗って湾を出て外海までお出かけです。山の緑を海から眺めながら、船で走る。何とも贅沢な旅です。子ども達は、カメラに向かって自然とピース！ 開放感あふれる笑顔です。



海から帰ると、飯盒炊さん。自分で火をおこし、飯ごうでご飯を炊く。仲間のために、カレーを作る。心豊かなひとときです。テーブルを囲んでの夕食では、少しずつ会話が生まれます。額に汗をかきながら、笑顔で話す子もいます。飛んでくる虫に大騒ぎをする場面もありました。食後、一人の男の子がギターを弾いてくれました。曲は、長渕さんの「乾杯」。みんなで、曲に合わせて体をゆらしながら歌いました。夕暮れ時に、お腹も心も満足した感じで、歌うひととき・・・子ども達の胸にしっかりと刻み込まれたのではないのでしょうか。

翌朝、ひんやりとした心地よい朝の空気が流れます。昨夜の花火の後始末をかねてお散歩タイム。眠い目をこすりながら歩いている子もいれば、何かふっきれたのか明るくはしゃぎまわる子もいます。親のもとを離れて仲間と過ごすという宿泊体験には、自立を促す活動がたくさんあります。NESTでは、このような活動を大切にしています。

## <トンボ玉作り> ～10月 伊勢まなび高校にて～

いつものバスで、伊勢まなび高校に出かけます。高校の先生方が、作り方をていねいに教えてくれます。色のついたガラス棒を熱で溶かします。棒をクルクル回すと、丸い玉ができてきます。そこに、別の色を加えると、きれいな模様のトンボ玉の出来上がり。何度も失敗したにもかかわらず、満足げな表情の子ども達です。

時間の合間に、学校参観。先輩たちが学習している様子を見た子ども達は、高校生の姿に自分を重ねたのでしょうか、どこか誇らしげでした。



## <みかん狩り> ～11月 ないぜしぜん村にて～

秋も深まった頃、いつもの小型バスで出かけます。行き先は、南伊勢町のないぜしぜん村。出会って半年以上が過ぎているので、バスの中での会話もはずみます。

しぜん村に到着。バスを降りると、目の前には五ヶ所湾が広がります。振り返ると、山一面にみかんの木があります。実に見事な景色です。

いよいよ、みかん狩り第一弾。片手にハサミを持ち、鮮やかなオレンジ色の実を手にとっては、パチンパチン。お昼時に食べられるだけのみかんをとりました。

続いて、みかんを持って山登り。山の中腹にある公園まで出かけます。きつい登りに汗をかきながら登っていきます。「もう、だめ～っ！」と大声で弱音をはきながら登ります。どこからか「がんばれ～っ！」と仲間の声が聞こえます。心がつながった感じでした。

山を下りたら、第二弾のみかん狩り。今度は、みかんで緑のかごをいっぱいにします。どうしたらたくさん入るか知恵比べ。工夫したところは、お互いに情報交換をしています。自然な会話が弾むひとときです。



教育支援センターNESTでは、紹介した活動の他にもたくさんの体験活動をしています。畑で野菜を育てたり、体育館で軽スポーツを楽しんだりしています。季節に合わせて、クリスマスリースを作ったり、書初めをしたり、貝雛を作ったりもしています。また、年度の終わりには、みんなでお別れ遠足に行き、楽しい一日を過ごします。

今、巣立ちの時を迎える子ども達を前に、これらの活動を振り返って思うことは、「活動は子ども達にコミュニケーションの場を提供してくれる」ということです。活動の中で自然と会話が生まれ、人とのかかわり方が身についていくのです。そして、かかわり合いながら、自分の感情のコントロールの方法を見つけていくのです。

卒業の日、一人の男の子が言いました。

「ぼくは、ここで温かい人のつながりを知りました。」

その言葉を聞いた私たちは、胸がいっぱいになりました。これからも、教育支援センターNESTが、学校との連携を深めながら、子ども達の社会的自立に向けた学校復帰を支援できるよう努力したいと思います。